

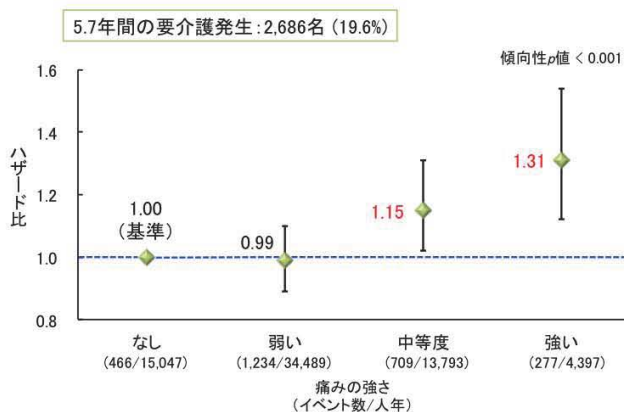
痛みと要介護発生リスクの関連（原因疾患別）：大崎市民コホート 2006 研究

Impact of Pain on Incident Risk of Disability in Elderly Japanese: Cause-specific Analysis.
2017 年 Anesthesiology 発表

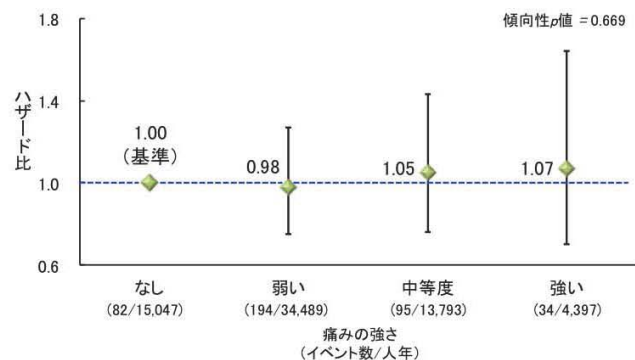
痛みが強い高齢者ほど、関節炎・骨折による要介護発生リスクが高い

痛み（腰痛、手足の痛み、頭痛など）はもっとも頻度が高い自覚症状で、とくに高齢者に多いことが知られています。痛みが強い高齢者ほど、要介護発生リスクが高いかどうかを調べた縦断研究（疫学研究）は少なく、結果が明確に一致していませんでした。また、要介護発生の原因疾患にまで踏み込んだ研究はありませんでした。そこで、痛みの強さと原因別要介護発生リスク（脳卒中、認知症、関節炎・骨折）との関連を前向きコホート研究である「大崎コホート 2006 研究」のデータにより検討しました（図）。本研究により、痛みが強い人達では要介護発生リスクが高いことが明らかになりました。また、原因疾患別にみると、関節炎・骨折による要介護発生で著明なリスク増加がみられました。

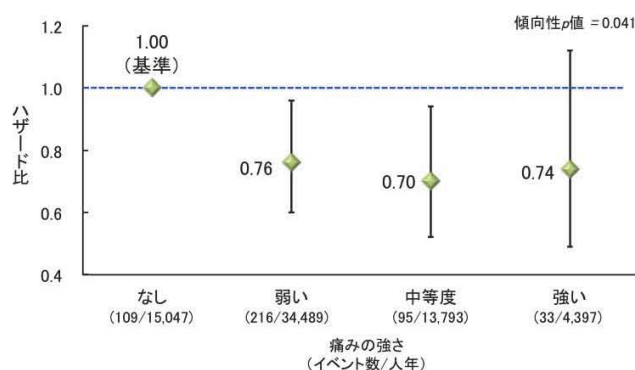
痛みと要介護の関連



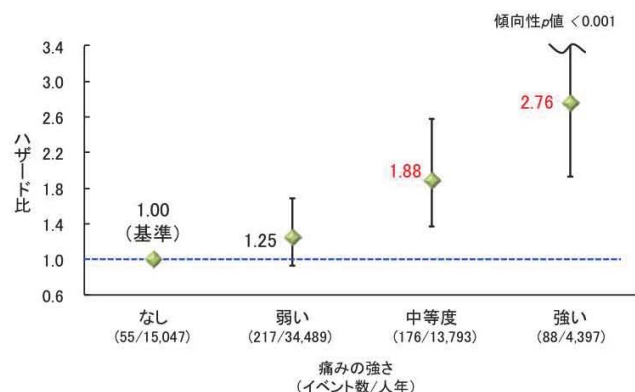
痛みと要介護(脳卒中)の関連



痛みと要介護(認知症)の関連



痛みと要介護(関節疾患・骨折)の関連



研究データについて

本研究の分析は 2006 年の 12 月に実施した大崎市民健康調査を用いて行いました。大崎市民健康調査は 65 歳以上（当時）の住民 31,694 人を対象にアンケート調査を実施し、23,091 人から有効回答を得ました。本研究ではこのうち、要介護認定の情報提供に非同意の者、ベースライン時に要介護認定を受けていた者、痛みの質問に回答しなかった者等を除いた 13,702 人について分析を行いました。追跡期間は 5.7 年間で、2,686 件の要介護発生がみられました。

痛みの強さについて

痛みの有無と強さは、アンケートの回答から得ました。「過去1カ月間に、体の痛みはどれくらいありましたか。」という質問に対し、「全然なかった」、「かすかな痛み」、「軽い痛み」、「中くらいの痛み」、「強い痛み」、「非常に強い痛み」の中から選択していただきました。回答した方が少なかった「非常に強い痛み」と「かすかな痛み」は、それぞれ「強い痛み」、「軽い痛み」と合わせひとつの項目とし、最終的に「痛みなし」、「弱い痛み」、「中等度の痛み」、「強い痛み」の4項目で解析しました。

他のリスク要因の影響について

強い痛みを抱えている者は、すでに高齢であったり、疾患の既往が多かったり、生活習慣が悪かったりする可能性が考えられます。そのため、この研究では、痛みと要介護発生に関連すると考えられる要因の影響を考慮したデータ解析をしています。具体的には、性、年齢、体格、既往歴、喫煙、飲酒、教育年数、運動機能、心理的ストレス、サポートの有無等の要因について、痛みの強さによって解析対象者を分けた群の間に偏りがなくなるように統計学的な処理を行いました。

研究の特徴と限界について

この研究の結果は、一般住民を対象とした大規模調査にもとづいて、様々な要因の影響を考慮した解析手法から得られたものです。ただし、この研究では、(1) ベースライン調査のみの1時点でしか痛みの強さを評価していないため痛みの経時的変化が考慮されていないこと、(2) すべての人が認定審査を受けるわけではないため、一定の誤分類が含まれている可能性がある等の限界もあります。
